

施策マネジメントシート ～平成29年度の振り返りから30年度の取組へ～

①計画⇒実施（Plan⇒Do）（5月中に記入）

長期振興計画 の位置づけ	まちづくり分野	ひと分野			担当課		社会教育課	
	政策分野	子育て・教育			課長名		松下 成悟	
	施策	16 社会教育の充実			重点施策 の該当	H29	—	H30 —
施策の目的	対象	市民			意図	生涯にわたって学び続け、生きがいに満ちた豊かな生活を送ることができる		

施策の目標指標

目標指標(単位)	長振策定時	指標の推移(下段の()書きは当初見込み値				最終目標値
	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標値	2019年度目標値	2020年度目標値	2021年度目標値
今後の学習活動への取り組み意欲(%)	52.7	57.1 (58.0)	60.0	62.0	64.0	66.0

市民アンケート調査の結果(施策に関する重要度と満足度)

平成29年度実績		平成30年度実績		2019年度実績		2020年度実績		2021年度実績	
重要度(%)	満足度(%)	重要度(%)	満足度(%)	重要度(%)	満足度(%)	重要度(%)	満足度(%)	重要度(%)	満足度(%)
80.5	29.1								
重要度DI	満足度DI	重要度DI	満足度DI	重要度DI	満足度DI	重要度DI	満足度DI	重要度DI	満足度DI
77.8	16.0								

施策推進のための取組の成果を測る指標

基本事業名	関連 戦略 No.	成果指標(単位)	長振策定時	指標の推移(下段の()書きは当初見込み値				最終目標値
			28年度実績	29年度実績	30年度目標値	2019年度目標値	2020年度目標値	2021年度目標値
生涯学習機会の充実		市民講座受講生の満足度(%)	—	88.0 (75.0)	77.5	80.0	82.5	85.0
生涯学習機会の充実		市民講座修了生(7割出席し修了)の割合(%)	62.0	69.8 (64.6)	67.2	69.8	72.4	75.0
社会教育団体の育成・支援		指導者等研修会の参加者数(人)	41	29 (42)	43	46	50	50
社会教育団体の育成・支援		各種社会教育団体や学級等の加入者数(人)	3,025	2,904 (3,030)	3,035	3,040	3,045	3,050
社会教育環境の充実		自己啓発のための講座、研修等への参加割合(%)	24.4	25.2 (27.0)	30.0	33.0	37.0	40.0
青少年の健全育成	9-21	補導件数(件)	12	10 (10)	7	5	3	0
青少年の健全育成	9-21	合同補導活動参加者数(人)	59	59 (59)	59	59	60	60
青少年の健全育成	9-21	中1ギャップ解消事業参加率(%)	24.2	17.9 (31.4)	38.5	45.7	52.8	60.0
社会教育施設整備の充実		施設利用満足度(%)	—	52.8 (45.0)	48.8	52.5	56.3	60.0

②-1 振り返り(Check)

施策を取り巻く環境変化・市民ニーズ等への対応	
市民が求める学習ニーズの把握(市民アンケート等)と指導者の発掘、各種団体等の後継者(役員のなり手不足)の育成の必要性。	
施策の成果(貢献度の高い事業等)と現状・課題	
成果	市民講座開設事業では、市民アンケートで希望の多かった講座を予定どおり開設でき、受講者数も目標を上回った。 図書館運営事業では、図書館施設や図書の充実を図り、システム導入により貸出や管理業務などの運営が強化された。 ふるさとまなび～隊開催事業では、定員を大幅に超える応募があり、本事業の需要は大きなものとなっている。異年齢集団での活動により、隊員ひとりひとりが積極的にコミュニケーションを取ろうする動きがでている。
現状・課題	市民アンケート以外に、市民講座受講生を対象にアンケートをしたが、今後もより多くの人々を対象としてニーズを把握し、講座を開設する必要がある。 図書館運営については、システム導入が平成29年度の年度末であったため、利用等の成果については、平成30年度となる。また、独自のイベント等を多く企画し、より多くの市民に利用して頂くような仕掛けを打つ必要がある。 「中1ギャップ」解消事業について、小規模校からの参加が少ない状況となっているので、学校行事や地域行事との日程調整や事業周知の徹底が必要である。

施策マネジメントシート ～平成29年度の振り返りから30年度の実行へ～

今後の方向性	今後の方向性の根拠等（他施策との連携、総合戦略との関連、環境変化等を踏まえ記入）
継続・現状維持	市民が求める学習ニーズの把握と指導者及び後継者の育成。 学校司書との連携を深め、子どもの読書活動推進に努める。 「中1ギャップ」解消事業は、参加した子どもの入学後の動向についての検証が必要となる。（成果指標参加率の測定は、分母は、榕城小・下西小以外の大字地区6年生、分子は、榕城小・下西小以外の大字地区の参加者）

②-2 政策部会による振り返り（Check）（6月中旬に記入）

今後の方向性	政策部会で出された施策に対する意見等（将来像の実現に向けた課題や優先度、市民との協働のあり方など）
継続・現状維持	【教育振興部会意見】 ○ 市立図書館にシステム導入を行ったことから、今後は、学校図書館との連携を進めていく。 ○ 中1ギャップ解消事業については、実績が下がっているが、事業後にアンケートを行った際に参加してよかったとの声が多かった。不登校対策にもつながる。 ○ スポーツ少年団、キッズコンシェルジュ、ふるさとまなび～隊等の取組みについても中1ギャップ解消に繋がっている。